

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム きびの里
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	和歌山県有田郡有田川町小島2-3
記入者名 (管理者)	村上 幸志
記入日	平成 20年 11月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフは家族様、地域の方々と協力しながら認知症高齢者を支える、地域作りを目指し、本人の意思を最大限尊重し、自立した生活が行える介護を、提供出来るように取り組んでいます。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員に運営理念の周知徹底をつとめ、定期的 に実施するカンファレンス、ミーティングで確認をしている。何か変わった事が、あれば出勤中のスタッフを集めミニミーティングを行ない確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関に貼り、見ていただくようにし、家族にも入居時、書類を渡し、説明している。	○	地域の人や家族様に、もっと事業所を理解していただけるような、行事等を実施出来るように取り組む。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	きびの里、通信を近隣のひとに見てもらえるように進めて行く。	○	きびの里、通信を多く出せるように進めて行く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お米や魚等、地域の商店に頼み交流はあるものの中身まで知っているようには、思えない為、きびの里通信などで情報提供するように努めたい。	○	運営推進会議で、地域の情報が少し入ってきつつある。事業所からの、情報提供を進めながら地域の行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で町の行事に参加できないか相談を行ったり、他の事業所を含め交流の場を作れないか、画策している。	○	法人内のデイサービスとの合同行事を行い、好評だったのでこれからも進めていきたい。また、運営推進会議で近隣の区長さんや民生委員と相談し、取り組んで行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年実施した結果を少しでも改善していけるように心掛ける。	○	運営推進会議開催やカンファレンスなどで話し合い指摘を受けた部分の改善をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合った内容はカンファレンスに報告し、サービス等に取り入れる。	○	運営推進会議参加者より指導を受け、脳活性トレーニングを早速取り入れ始めています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことがあれば、話しをするように心がけている。 生活保護を受けている方の入所についての調整等について町担当者に指導を受けてる。	○	以前より連携が取れてきたと思うが、情報交換等、積極的に言いサービスの質の向上に繋げたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、利用者に権利擁護を活用している人が居る為、地域社会福祉課と時々、話し合いをしている。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、活用できるように支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会が持ていないが防止には努めている。	○	職員個々が虐待について知識を深め、カンファレンスの席上で発表し、職員全員が虐待防止の徹底に勤めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所に関して、事前に家族に運営規定、契約書、重要事項説明書、同意書に関して説明を行い、サインしていただいている。</p>	<p>○</p> <p>入所時の説明を確実にを行い利用者、家族の意見を聞き、疑問を残さないよう心掛けている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で、家族の意見を頂き、今後の運営に反映させて行けるように取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>常に家族に連絡し、利用者の近況報告を行ない、意見を聞くようにしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態等に問題がある場合等、随時家族に報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で、家族の意見を頂き、今後の運営に反映させて行けるように取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>疑問、問題等起きた時、すぐにスタッフを集めミーティングを行っている。また、全体カンファレンスを定期的に行い、意見・提案を聞く機会を設け反映していけるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>他の病院の受診は基本家族だが、どうしても無理なときは、スタッフが協力している。家族の都合にあわせ連絡、来所の時間は設定している。</p>	<p>○</p> <p>フリーの職員を作っておき急な変化に柔軟に対応できるようにしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は母体との兼務も以前行なっていたが改善し、現在職員は全て専任である。欠員が出た場合は、グループホーム内で勤務調整している。人事の面接は管理者も入って行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での勉強会、法人外への研修に職員全員が定期的に研修を受けるように取り組んでいます。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、研修や交流相互実習などを行っている。 法人内の職員との交流は行っている。	○ 近くの事業所とも多く交流をはかり、ネットワークを広げていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月一回のカンファレンスを実施しているものの悩み・ストレスを解消する対策には至っていない。	○ 管理者や職員の悩み・ストレスを少しでも解消できるよう、法人の理事とも相談し対策を考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症実践者研修、グループホーム連絡会等の研修には出来る限り参加し、法人内の会議、研修にも出席し申し送りを行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○ 各自が向上心を持って働けるような職場作りを、法人全体で取り組んでいきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に、家族の協力を頂き、本人と面談を行い不安や思っていることを聴き、安心して利用できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等が困っていること不安なことを聴く機会を作り、いつでも話し合いができる関係作りを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受け、すでに在宅サービス利用している方には担当されている介護支援専門員へ連絡を行い状況を把握し、法人内の地域連携室にも協力してもらい対応できるよう取り組んでいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に見学していただき、雰囲気をもってもらったり、話しをしてもらったりして、家族にも協力してもらい、馴染めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人の出来ること出来ないこと得意とすることを、共に過ごす事で見つけ出し、時には学び共感し、常に利用者の輪の中に入って支援できるよう心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的に連絡を取り近況報告をし、話し合いを行いながら支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊などをしていただき、家族のあたたかさを感じていただけるようにしているが、特定の利用者となってしまう。家族には出来るだけ、面会に来てもらう様働きかけている。	○	家族と過ごしていただく時間作りのために話し合いをすすめている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が訪ねてきてくれたり、関係が途切れないように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、言い合いになる事もあるが、その都度仲裁を行い孤立しないよう心掛け、支え合えるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院併設型なので体調が悪くなれば病院へ入院となったり、法人内の施設を利用することがあるため、断ち切らないように、地域連携室が協力し、付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位を大切にし、意見、希望は受け入れて、それぞれに対応出来るように取り組んでいる。	○	センター方式を活用し、本人の暮らし方等の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から必要に応じて、普段の会話やコミュニケーションから引き出し、サービス計画の参考にし把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人別の24時間シートに記入し、現状を総合的に把握するように努めている。	○	定期健診や通所リハビリ等を利用し、機能低下しないように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係者とも話し合い意見を取り入れて介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題となることが生じた場合、カンファレンス、申し送り等、経過を記録して、見直しをするように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の24時間シートに記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かせるように努めている。	○	職員一人ひとりがモニタリング出来る様情報を共有し、ミーティングを行い、チームケアを行なう上での課題として、介護計画の見直しに取り組んでいく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療法人である為、医療面やリハビリ・訪問看護・ディサービス・支援センター・連携室等、それぞれ事業所と連携を取り、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で社協職員、民生委員と関わりをもっているがネットワークは狭い。	○	少しずつ連携のはばは広がってきていると思うが、運営推進会議等をいかして良い協力関係を築きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループホームの職員と話し合う機会はあるが、地域の他のケアマネジャーとは話し合う機会が作れていない。 法人内の事業とは話しをする機会を作っている。	○	ネットワークを広げていき、話し合いをする機会を作っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で地域包括支援センターの職員に参加していただいて協力していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度往診にきてもらっているなど、母体である病院の協力を得ている。精神科、歯科とも契約し、支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>専門職の支援を受け、事業所としての価値観を高めていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は名前で呼び掛けし個人の プライバシー・プライドを傷つけないような言葉かけを心がけている。	○ 個人情報保護の為、家族にも相談し許可を得ている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人差はあるが、自己決定を前提に何度でも根気良く話して納得して頂けるように努めています。	○ 利用者にスタッフが合わすように心掛けている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らし暮らしを大切にし、本人の希望を優先し意志を尊重して、職員側のペースにならない様に心掛けている。	○ 一人ひとりのペースを大切に、メリハリのある生活を送れるよう支援する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容美容院に行かれる方は家族の協力をもらっているが、都合が付かない場合は近隣の美容室から来てもらっています。	○ 生活におしゃれを取り入れていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせた手伝いをしてもらっている。	○ 利用者と共にメニューを考えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自室で食べないようにしてもらっている為、差し入れの物は預かり、希望された時にわたしている。家族の方にも了承頂いています。 食事に楽しみを、加える工夫に取り組んでいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握や健康状態把握の為に、個人別記録表に記録し、その人に合った支援をしている。	○	定期的にトイレの声かけを行っているが、時間帯も記入できるようなチェック表を作成し、パターンを把握する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事前に入浴の意志を確認し、入浴したい時に、ゆっくりとお風呂を楽しんでもらうよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の様子を観察し、眠そうな時などは、昼寝をすすめたりするように、心掛けている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い・食器拭き・調理・洗濯たたみなど、一人ひとりが行えるような役割を作り、分担して行なっている。一人で何もする事がなく退屈しているときは、本人が出来る範囲内で好きな趣味等を生かした時間の過ごし方が出来る様、工夫している。	○	脳トレーニングの一つとして、簡単な計算ドリル、図形等をしていただき、認知症予防に繋がるように支援してはいるが、気晴らしに散歩等を多くしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面は被害妄想が出たりする為、個人が所持することはなるべく行われぬようにして、ホームが出納帳に記入し管理している。家族に説明し、了承してもらっている。	○	買い物日を作りお金を持って出かける日などを作っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日向ぼっこをしいたいたり、散歩したりはしているが、遠くまでいくことが難しくなっている。	○	食材の買い物やドライブ等、出来るだけ多く戸外に一緒に行けるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回遠足を実施しているが利用者の身体機能低下により全員が一緒に外出する機会が少なくなっている。今年は地域の祭りにも行き、一部の家族も同行してくれました。	○	遠足に全員が家族と共に出かけられる様にしたい。家族に協力していただき家族と一緒に出かけられる機会を作る。地域の民生委員が春の遠足に同行してくれました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる利用者、手紙を書いたりすれば、やりとりできるように支援している。できない方も本人の意思を聴き、家族に伝えるようにしている。	○	年賀状や暑中見舞い等書いていただき、送るようにしていきたいと思っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来所していただけるように面会時間の制限を設けていない。面会場所は居室、リビング等どこでも行なってもらえるよう対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう職員全体認識できるよう話し合いを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室、エレベーターは鍵をかけていないが、階段は急で転倒の恐れあり、実際何人が降りてしまいヒヤリ、ハットした為、鍵をしている。	○	階段が死角になっている為わかりにくい所があり、急な為、転倒の危険性が高い。何か良い方法を考えた。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員相互の所在を常に確認し、目くばり、気くばりをし安全確認を行なっている。夜間は、1時間に1回以上巡視し、必要に応じて随時見守りを行い、安全確認している。	○	利用者が居室に戻り、確認をしても15分後には転倒というケースもある。その人の精神面、状態に合わせ、臨機応変に対応していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、裁縫道具を持っている方もいる。危険と考えられる方は、危険を防ぐ為に、預かっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット、事故報告により、改善について、母体とも協力し最善の対策がとれるよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡マニュアルを作成しているが、応急手当、初期対応の訓練を定期的に行えていない。	○	研修等にも参加し、応急手当など初期対応の大切さを理解し、母体との訓練を出来るよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、避難訓練を行い母体施設から協力を依頼している。	○	地域の方とも連携をとり、安全に対応していけるよう取り組んでいく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等いろいろリスクはあるが家族に報告、連絡、相談を行い、対応策について話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的に、バイタルサインチェックを行い、異常の有無、判断を記録に残している。異常があれば母体の外来に受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により、服薬の一覧表を作ってもらい、服薬の管理を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼っているところがあるが、リハビリを含めラジオ体操や簡単な体を動かす時間を取っている。	○	水分補給は出来るだけ、多く摂取してもらっている。食事に関しては便秘に良いものを取り入れて、いきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、就寝前には口腔ケアに積極的に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成する献立表を参考にして、献立表を作成している。 水分摂取には特に注意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、法人内の感染委員会などに出席している。	○	母体のマニュアルと同じものである為、グループホームに見合った、マニュアルを作成してきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には十分留意して行っている。 買い物(食材)は買い置きをしないよう2日に1回にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く段差もなく出入りしてもらいやすい。またプランターに花を植えたり、観葉植物などを置いて、落ち着いた雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差のないバリアフリーの作りになっており、共用空間は季節に応じた作り物や行事の写真等を貼り、生活感のあるよう心がけ、利用者、職員が、過ごし易い空間作りを努めている。	○	和室の利用が少なく、使用について検討していく必要がある。 不快にならないように、表示をしたり、職員がついていたり工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ付近にソファをおき、話しをするスペースを作っている。	○	くつろげるスペースを作りたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもを持ってきていただくように入所前に本人、家族と相談している。不具合があった時は、家族と相談して安全性を重視した家具等に変えてもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を心がけ、快適に過ごせるよう、温度調節に気を付けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有の場所の安全性、ソファー・テーブルの位置を工夫し、ADLに活かした場所作りを心掛けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各自の部屋が分かり易い様に、名札を作り部屋の前に付けて、自分ひとりで出入り出来るようにしている。名前表示は本人、家族に了承してもらっています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	バルコニーなどでプランターで花作りなどをしたり、活動できるよう工夫している。	○	個人の能力も徐々に落ちてきて転倒の危険もあるが、少しでも利用出来るように取り組む。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体が医療法人で、グループホームと病院が隣接している為、利用者が体調崩したときは、すぐに対応出来て安心である。スタッフ一同、真心持って安らぎのある生活を送って頂ける様、取り組んでいます。